

2. ユニットケア施設研修について

(1) 施設管理者向け研修

- 高齢者痴呆介護研究・研修東京センターにおいて、今年度より開始。
- 施設管理者を対象に、ユニットケア導入の意義、施設運営に係る留意点等に関する研修会を実施。
- 座学中心に1泊2日。
- これまでの4回で計110名が受講。

(2) ユニットリーダー向け研修

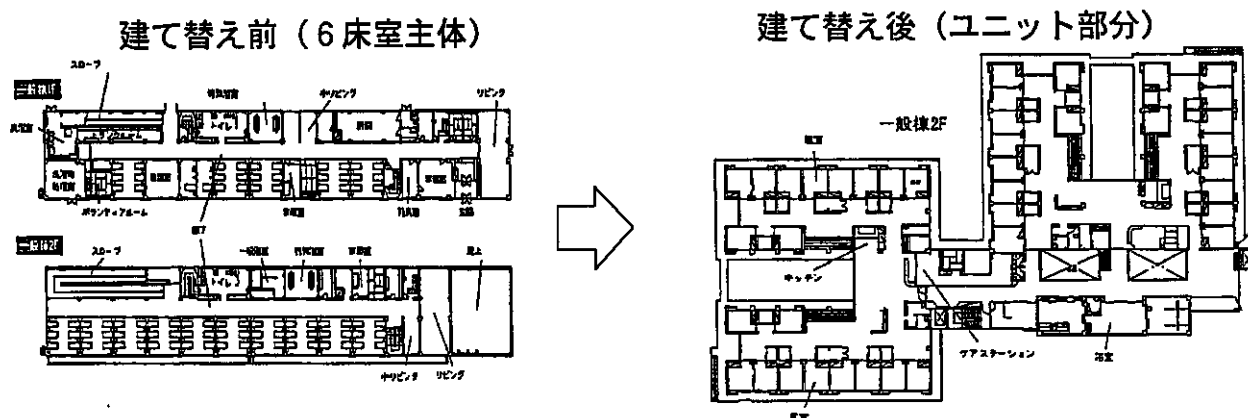
- 高齢者痴呆介護研究・研修東京センターにおいて、今年度より全国9か所の実地研修施設の協力を得て開始。
- ユニットケアにおける介護方法、情報の共有や職員の指導体制に関する研修会を実施。
- ユニットケア実施施設における演習・実習を中心に10日間程度の研修を実施。
- これまでに計85名が受講。
- 今後、実地研修施設を増やしていく予定。

(参考) 既存施設のユニットケア化の効果

6人部屋の特別養護老人ホームを建て替え、個室・ユニットケアを導入した事例において、建て替え前後の入居者及びスタッフの行動の変化を調査した結果、以下のような点に変化がみられたことが分かった。

- * 『介護保険施設における個室化とユニットケアに関する研究報告書』(平成13年3月・医療経済研究機構)
- 『普及期における介護保険施設の個室化とユニットケアに関する研究報告書』(平成14年3月・同)

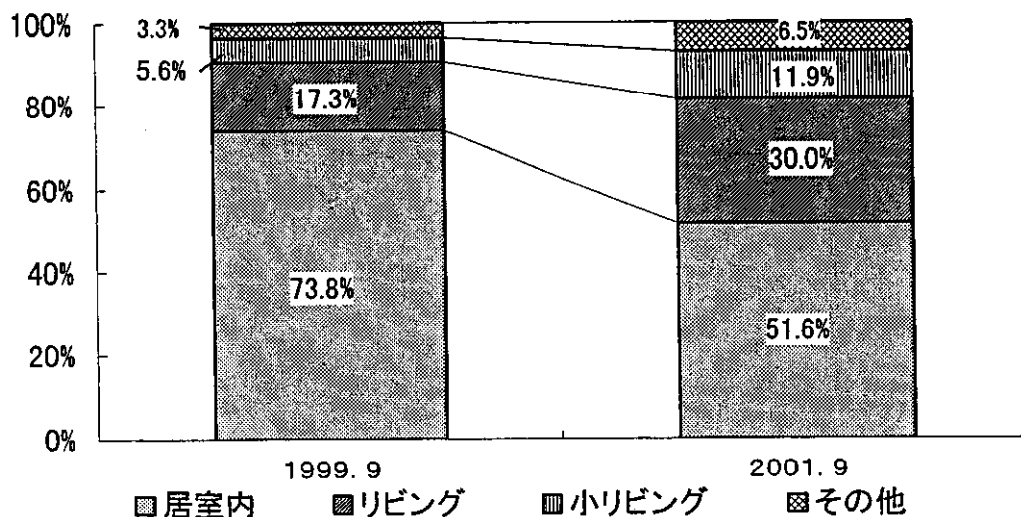
1 建て替え前後の居室配置の状況



2 入居者の生活の変化

① 居場所の変化

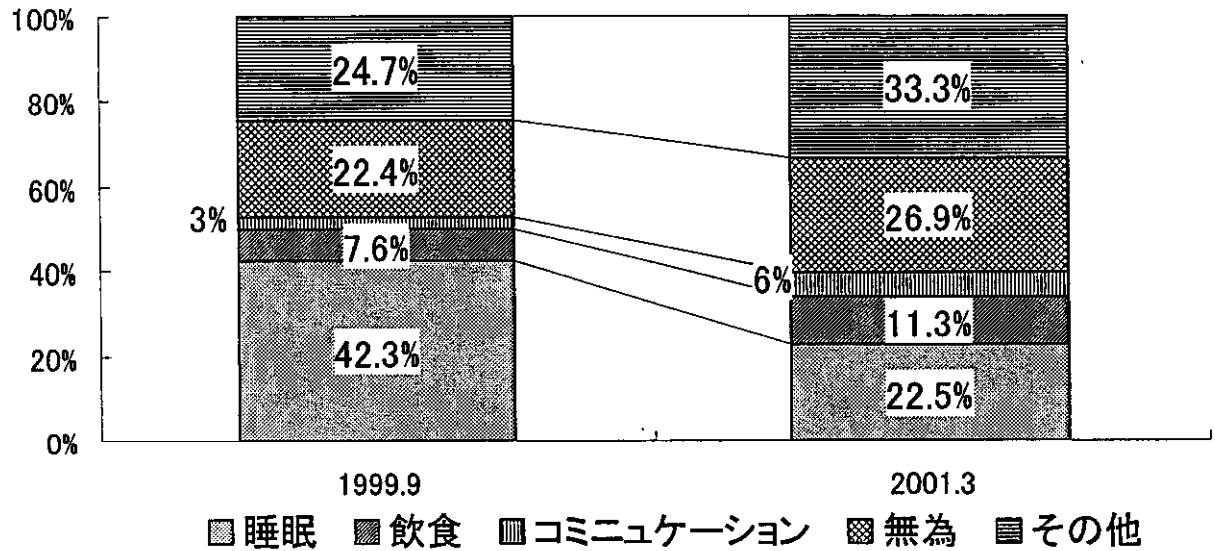
- ・居室内にいる時間が約3/4→約1/2に減少。
- ・リビング・小リビングにいる時間が約2割→約4割に増加。
- ・生活の中心がベッドからリビングへ。



*午前7時から午後7時までの状況を調査。

② 行為の変化

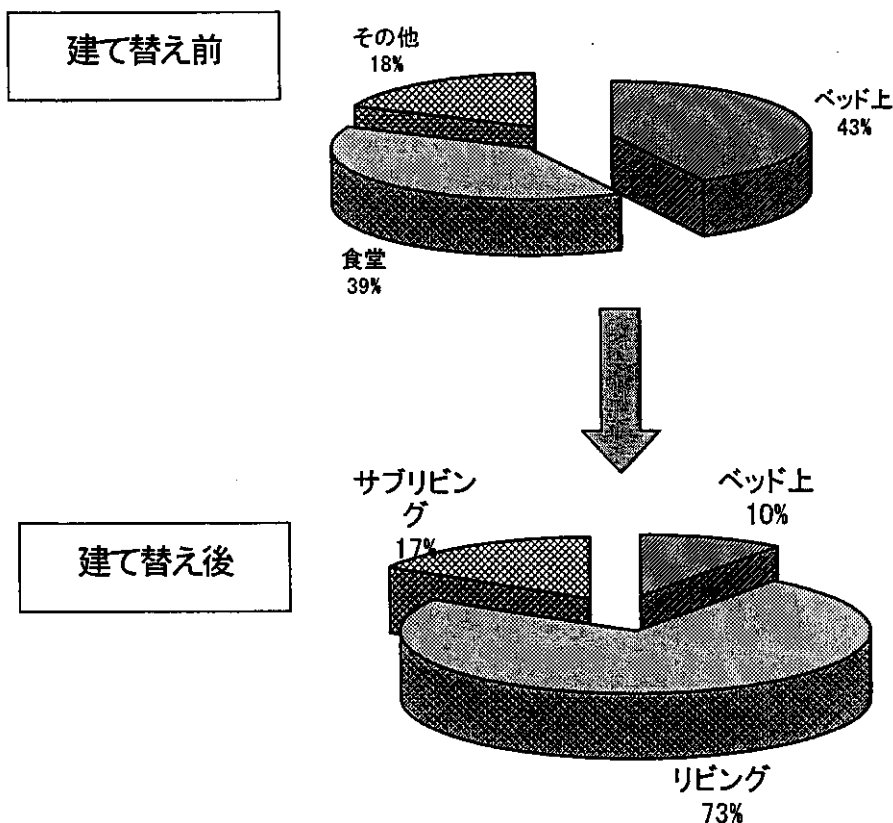
- ・睡眠が約4割→約2割に減少。
- ・コミュニケーションや食事の時間が増えるなど、姿勢が横たわりから座位へ。



*午前7時から午後7時までの状況を調査。

③ 食事場所の変化

ベッド上での食事が約4割→約1割に減少。また、食堂での食事が約4割を占めていたところ、約9割がリビング・サブリビングで食事をするようになり、生活にメリハリができた。



④ 残飯の変化

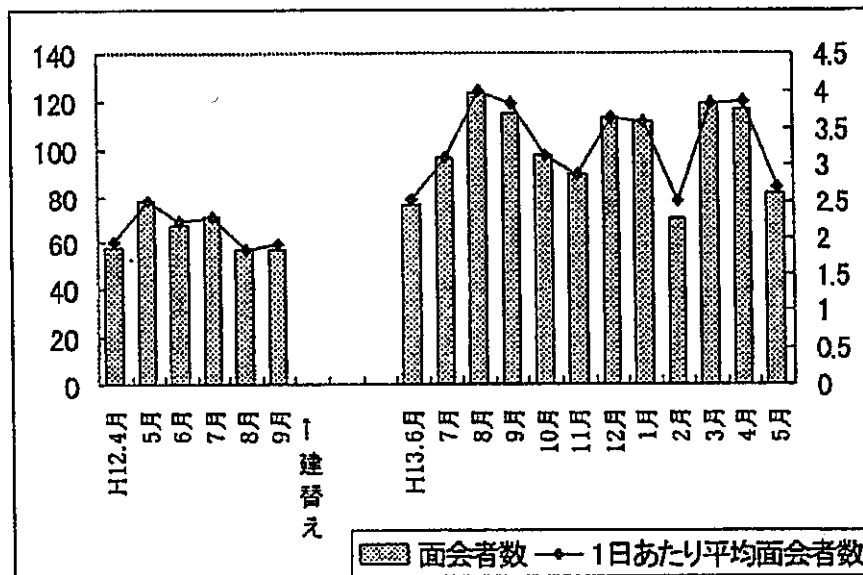
一人当たり残飯量が92g→43gに減少し、食事摂取量が増加。

⑤ 排せつの変化

ポータブルトイレの設置数が29台→14台に減少し、排せつが改善。

3 家族の変化

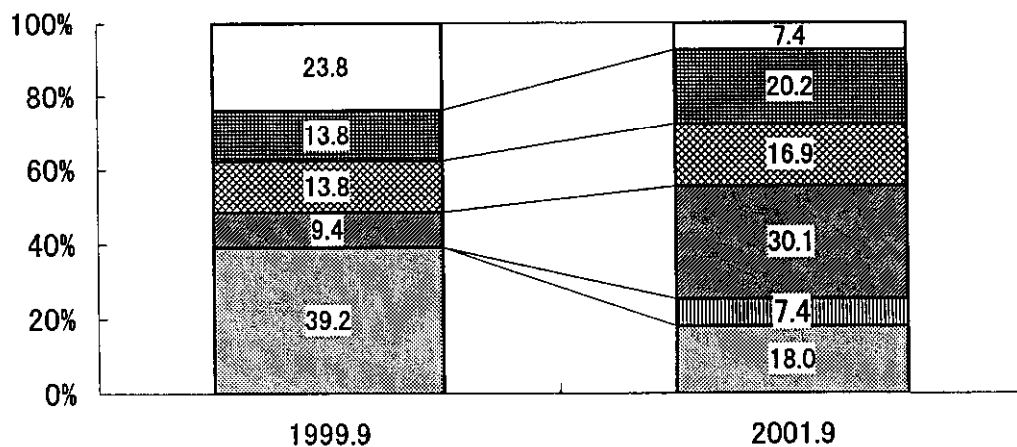
○建て替え前後の面会者数を比較すると、建て替え後は増加。



4 スタッフの行動の変化

①居場所の変化

・居室にいる時間が減少し、リビングにいる時間が増加。

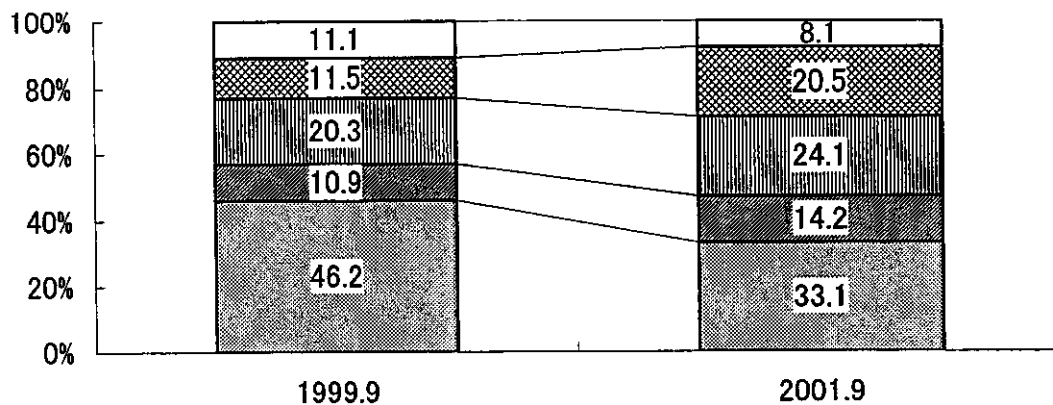


■居室 ■小リビング ■リビング ■管理空間 ■共用空間 □その他

*午前7時から午後7時までの状況を調査。

②行為内容の変化

- ・身体介助中心のケアから、余暇を過ごしたり交流を図ったりといったケアへと、質的に変化。

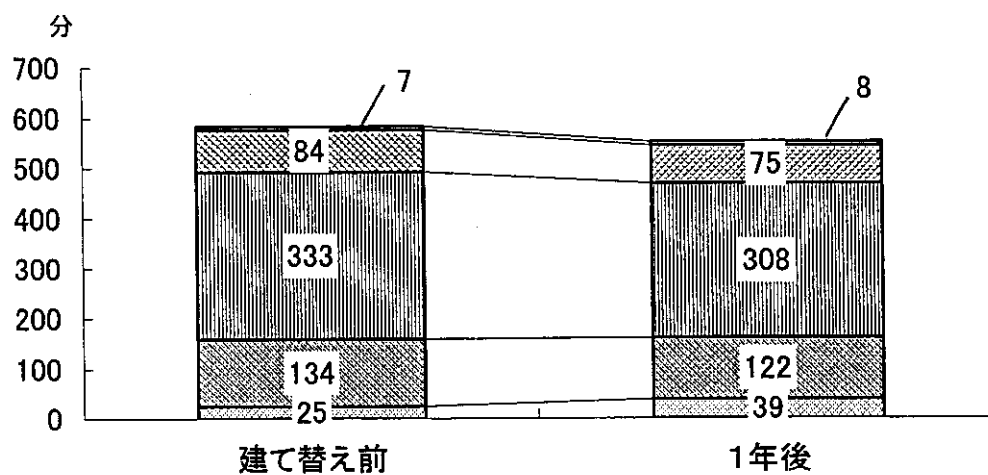


■直接介助 ■間接介助 ■余暇・交流 ■管理業務 □その他

*午前7時から午後7時までの状況を調査。

③運動量の変化

- ・介護時の移動スピードを測ったところ、建て替え前と比べて、全体的に移動をしている時間が減少し、「安静状態」にある時間が増加している。



■安静状態 ■微少運動 ■ゆっくり歩行 ■速歩 □ジョギング

*各職員の勤務時間帯における状況を調査。

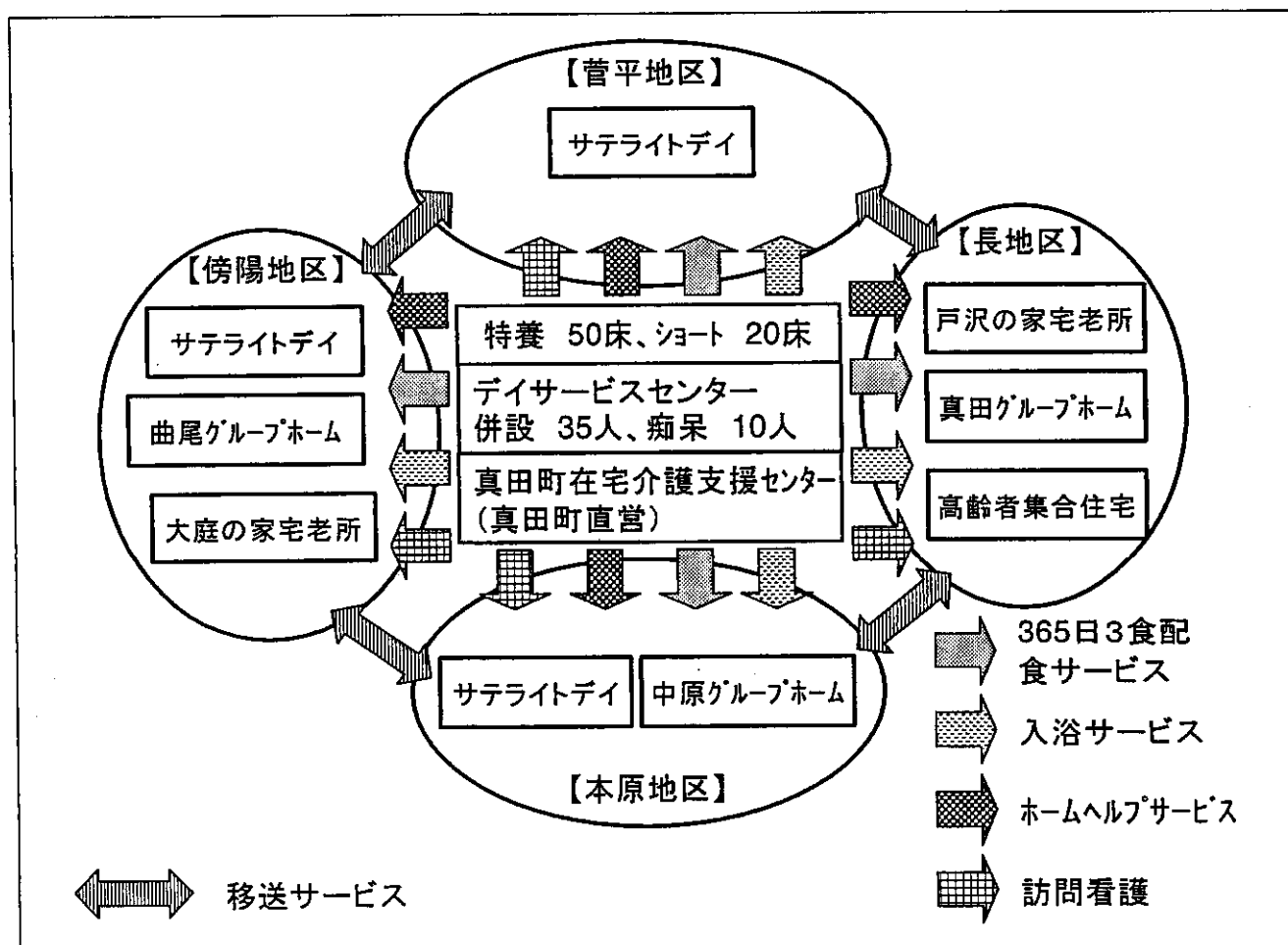
特別養護老人ホームにおける地域展開への取組

- 特別養護老人ホームにおける地域展開への取組としては、
- ① 施設の有する人的・物的資源を、地域で生活する高齢者に提供するもの（サテライトデイサービス等）、
 - ② 施設の入所者に対し、地域の中でケアを提供するもの（逆デイサービス）
- といったものがある。

（1）施設機能を地域の在宅高齢者に提供している事例

特別養護老人ホーム「アザレアンさなだ」（長野県真田町）

- 施設の有する人的・物的資源を、地域で生活する高齢者に提供。
- ・ 地域の高齢者に、24時間・365日の訪問介護・訪問看護、365日・3食の配食・訪問入浴サービスを提供。
 - ・ 地域のコミュニティセンター等で、「サテライトデイサービス」を実施。



(2) 施設の入所者に対し、地域の中でケアを提供している事例

特別養護老人ホーム「いずみの園」(大分県中津市)

- 特別養護老人ホームで生活していても、地域の一員であることを大切にすることを具体化するという目的で行っている取り組み。
 - ・ 特別養護老人ホームから6キロ(車で約10分)離れた場所にある入所者の自宅を利用し、数人の入所者が日中を過ごす。(逆デイサービス)
 - ・ 毎回、決まったメンバーで、同じユニットの中の痴呆を持つ入居者5人(要介護2~3)で行う。
 - ・ 近所に住む人がボランティアとして訪れたり、野菜を届けたり、地域との交流がある。また、ボランティアは、高齢者と一緒に食事の準備や高齢者の話し相手をすることで、家庭的な雰囲気をつくり出す重要な役割を果たしている。

実施日：週3~4回(水、金、日曜が多い)
職員数：2人(専従スタッフ1人、非専従スタッフ1人)
時間：10:00~16:30

<ある日の一例>

10:00	施設出発
10:15	スーパーで昼食の買い物
10:50	逆デイサービスの場所に到着
11:00	昼食準備、掃除
12:00	昼食 お昼寝
14:00	片づけ、散歩、草むしりなど
16:00	「いずみの園」に帰園準備、帰園。